擁壁工-補強土擁壁工（テールアルメ工、連続長繊維補強土） 九州フィールド対象NETIS技術等選定一覧

□ 工法比較表対象技術　□ 新規対象技術（調査中）　□ 削除技術　　令和8年10月現在

※「活用状況（本省）」欄にNETIS掲載期間内の大まかな活用件数を記す。☆＝500件以上、◎=100件以上、○=50件以上、□=20件以上 （注）NETISホームページへ移動しない場合は、ファイルをダウンロードしてご使用ください。

整理番号	技術名	NETIS番号	AVG	アブストラクト	区分	分類1 Lv.1	分類1 Lv.2	分類1 Lv.3	分類1 Lv.4	技術の位置づけ	活用効果評価	活用状況（本省）※	掲載期間終了技術（終了時期）	備考	NETIS HPリンク先（注）
1	トリグリッド	KT-110039	VG	本技術は急勾配の補強土壁を構築するためのジオテキスタイル補強土壁工法で、従来はテールアルメ工法で対応していた。本技術の活用により、軽量な溶接金網と腐食の懸念がない樹脂製補強材を用い、施工性に優れた補強土壁を迅速かつ経済的に構築することができる。	工法	共通工	擁壁工	補強土擁壁工	連続長繊維補強土工	[R2準推奨]	有	□	2022/3/31		-
2	大型積みブロックアンカーウォール(チサンウォール)	KK-160008	VR	本工法は、壁面材に大型積みブロックを使用したアンカー式補強土壁工法であり、水平補強材に異形棒鋼、アンカー材に山形鋼など汎用性のある鋼材を使用している。従来工法に比べ施工時の作業性向上とコスト縮減を図ることが出来る。	工法	共通工	擁壁工	補強土擁壁工	その他						https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KK-160008
3	テラグリッド補強土工法	HK-160018	VR	本工法は壁面に樹脂製のジオセルを用いた補強土工法で、従来は鋼製枠を用いた補強土工法で対応していた。本技術の活用により凍上や塩害に対する耐久性が向上し、さらに壁面裏の締固めが容易なため、壁面裏の土の安定性が高くなることが期待できる。	工法	共通工	擁壁工	補強土擁壁工	その他		有				https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=HK-160018
4	テンサーFWM工法	QS-170002	VE	本技術は、溶接金網製鋼製枠を用いた補強土壁工法で、従来はエキスパンドメタル製鋼製枠で対応していた。本技術の活用により、部材が軽量でかつ障害物がないため、日当り施工量が増加し、工期の短縮が期待できる。	工法	共通工	擁壁工	補強土擁壁工	その他		有				https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=QS-170002
5	チェーンウォール・マイティー	KK-170030	A	本技術は、鋼管で上下連結する壁面材と、補強材としてチェーンおよび支圧板の引き抜き抵抗力により補強領域を形成する補強土壁工法であり、従来はテールアルメ工法で対応していた。本技術の活用により経済性、施工性、景観の向上と工期短縮が期待できる。	工法	共通工	擁壁工	補強土擁壁工	その他						https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KK-170030
6	テールアルメFS	QS-170031	VE	テールアルメの過荷重や経年劣化による変状発生箇所を特定部材(FSコネクティブA）により,動態観測を外観目視によって変状を容易に確認できる構造とした。また,予備の部材(FSコネクティブB）を追加することにより,機能維持状態のまま対策工の検討・施工を可能にした。	工法	共通工	擁壁工	補強土擁壁工	テールアルメ工		有				https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=QS-170031
7	ハイビーネオ	HK-180020	A	本技術は、補強土壁工法である。従来は帯鋼補強土壁などで対応していたが、本技術の活用で壁面材の薄型軽量化による施工性の向上及び短繊維混合改良土とジオグリッドによる補強土壁の品質向上が期待できる。また現場発生土の利用で環境への影響低減も可能となる。	工法	共通工	擁壁工	補強土擁壁工	その他						https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=HK-180020
8	緑化テールアルメ(テラトレールF2,テラヴェール)工法	TH-990034	VG	緑化テールアルメ工法は,テールアルメ工法の技術に準じた斜壁タイプの補強土工法です。従来のテラトレール工法の壁面材や補強材取付け部材の改良により,経済性ならびに施工性が向上しています。壁面は緑化や天然石積みタイプや,盛土構築後にコンクリート打設も可能です。	工法	共通工	擁壁工	補強土擁壁工	テールアルメ工	評価済み	有	◎	2017/4/20		-
9	補強土壁工法「テンサーダブルウォール」	CB-990067	VG	本工法は,鋼製枠形式あるいは間伐材枠形式の壁面工と石油化学2次製品のジオグリッド(商品名テンサー)を有機的に組み合わせて篭状のものをつくり,その中に現地発生土砂を詰め込むことによって構築した,現地合わせオーダーメイドのジオテキニ重壁補強土工法である.	工法	共通工	擁壁工	補強土擁壁工	その他	評価済み	有	○	2017/4/20		-
10	テールアルメ工法A3	CB-040062	VG	従来のテールアルメの補強材(ストリップ)の配置を改善し,且つ摩擦面積を拡大したストリップを併用する事により,更なる施工性,経済性の向上を実現しました。	工法	共通工	擁壁工	補強土擁壁工	テールアルメ工	評価済み	有	○	2017/4/20		-
11	オールプレキャストテールアルメ	KT-210058	A	本技術は、テールアルメ工法の全プレキャスト化を図る技術で、従来は現場打コンクリートにより対応していた。本技術の活用により施工時の省人化・工期短縮が図られることとなり、生産性向上の効果に加え高所作業の軽減から作業安全性の向上が図れる。	工法	共通工	擁壁工	補強土擁壁工	テールアルメ工						https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-210058
12	塩害対策用アデムウォールパネル	KT-220093	A	本技術は、補強土壁に用いる短繊維を混入した塩害対策用無筋コンクリートパネルで、従来は補強土壁工(帯鋼補強土壁)で対応していた。本技術の活用により、塩害や凍結防止剤の影響を受ける地域の補強土壁においても、腐食がなく、剥落も防止できるため、耐久性の向上が図れる。	製品	共通工	擁壁工	補強土擁壁工	その他						https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-220093
13	NDパネル	KT-220155	A	本技術は、補強材を前面に突出させるための多数アンカー式補強土壁用の壁面材及び連結部材で、従来は壁面材の背面で補強材を連結していた。本技術の活用により補強材の非破壊検査による診断が可能となり、補強土壁の安全性向上及び診断時の作業安全性や施工性の向上が図れる。	製品	共通工	擁壁工	補強土擁壁工	多数アンカー工						https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-220155
14	耐侵食性能と緑化性能に優れた植生シート「グリーンテラスシート」	QS-220029	A	本技術はジオテキスタイルを用いた補強土工法に使用する植生シートである。従来は樹脂製ネットと水解性資材で構成される植生シートが使用されていた。本技術の活用によりシートの耐侵食性能、緑化性能、引張強度が向上し、補強土工法の壁面の耐侵食性が向上する。	製品	共通工	擁壁工	補強土擁壁工	その他						https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=QS-220029
15	塩害対策型ハイビーウォール	CG-240017	A	本技術は、非金属材料のみを使用した補強土壁工法で、従来は帯状補強土壁で対応していた。本技術の活用により、経済性の向上、塩害に対する耐久性の向上が期待できる。また、現地発生土を有効活用できることから周辺環境への影響の減少が期待できる。	工法	共通工	擁壁工	補強土擁壁工	その他						https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=CG-240017
16	MEAパネル	CG-250001	A	本技術は補強土壁の構築後にジオグリッドの引抜き試験ができるコンクリートパネルであり、従来は壁面材と盛土を撤去する方法で対応していた。本技術の活用により壁面材と盛土の撤去の必要がなくなり経済性、安全性、施工性、維持管理性が向上する。	工法	共通工	擁壁工	補強土擁壁工	その他						https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=CG-250001